

## 令和4年度（横須賀大津高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止【必須事項】	定期テスト、成績処理に係る事故防止及び進路関係書類に係る事故防止の徹底を図る。	○定期テスト前、成績処理の際に、不祥事防止会議を実施した。担当グループが答案の誤廃棄等に係る注意喚起をし、シュレッダー使用制限を徹底した。 <b>達成状況</b> 昨年度の点検方法を見直しする等の取り組みにより、事故の未然防止がなされたので「目標達成」とする。
(2) 入学者選抜に係る事故防止【必須事項】	入学者選抜に係る事故を未然に防止する。	○12月、1月に職員啓発・点検資料vol.141を活用し不祥事研修を実施し、適切に入学者選抜業務を進めることができた。 <b>達成状況</b> 選抜から合格発表まで、入学者選抜に係る事故はなかったので「目標達成」とする。
(3) わいせつ・セクハラ行為の防止【必須事項】	人権感覚の向上に努め、わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。	○4月25日～4月28日の3日間、性被害の影響について理解を深める研修(60分)を全教職員対象に行った。 ○点検資料を用いてセルフチェックを行った。 ○11月、12月に、「令和4年度学校におけるセクシャルハラスメントに係るアンケート調査結果」を資料とし、不祥事防止研修を行った。 <b>達成状況</b> わいせつ・セクハラ事案は見られなかったので「目標達成」とする。
(4) 法令遵守意識の向上(公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底)【必須事項】	『神奈川県職員行動指針』の周知・徹底を図り、県民の信頼に込め得る高い倫理観の保持に努め、公務外非行を未然に防止するとともに、県民対応の基本を再確認する。	○4月12日の職員会議にて『神奈川県職員行動指針』を全職員に配付し、内容を校長が説明し不祥事防止の意識の向上を図った。 ○初任者に対し、校内研修にて指導担当者が繰り返し説明し、職員相互で法令遵守意識を高めた。 <b>達成状況</b> 公務外非行等は見られず法令遵守が図られたので「目標達成」とする。
(5) 体罰、不適切な指導の防止【必須事項】	人権意識の向上に努め、体罰・不適切指導を未然に防止する。	○8月に、職員啓発・点検資料vol.136を活用して不祥事防止研修を実施した。また、長期休業前後や学校行事等折に触れ、注意喚起し合い、意識の向上を図った。 <b>達成状況</b> 体罰、不適切な指導は見られなかったので「目標達成」とする。
(6) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策(パスワードの設定、誤廃棄防止)	神奈川県個人情報保護条例、その他個人情報保護に関するガイドラインに則り情報の適切な管理に努める。	○情報セキュリティ監査の際に、教職員への情報管理について周知し、意識の向上を図った。 ○11月に職員点検・啓発資料vol.138を活用し研修を行った。また、定期的に不祥事防止研修で取り上げた。 <b>達成状況</b> 個人情報等の管理、情報セキュリティに係る事故はなかったので「目標達成」とする
(7) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い・酒気帯び運転の未然防止及び交通法規遵守を徹底する。	○11月に職員啓発・点検資料(特集)を活用し不祥事防止研修を実施した。 <b>達成状況</b> 職員による交通事故・交通違反がゼロとはならなかったので「継続取り組み」とする。

<p>(8) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）</p>	<p>適切な業務の執行・進行管理に努める。</p>	<p>○5月に職員啓発・点検資料132を活用し不祥事防止研修を行った。また、企画会議等で日頃から職員間で円滑な業務執行のための情報共有や相互チェック体制の重要性を話題にし、職場環境の適正化を図っている。</p> <p>○ストレスチェック</p> <p><b>達成状況</b> 適切な報告・連絡・相談、情報の共有化と相互チェックを行っているため「目標達成」とする。</p>
<p>(9) 会計事務等の適正執行</p>	<p>会計事務等の適正な執行に努める。</p>	<p>○10月に職員啓発・点検資料1vol.139を活用し不祥事防止研修を行った。また、監査結果等については企画会議をとおして共有し、適正な執行に努めた。</p> <p><b>達成状況</b> 監査が適切に行われ、学校徴収金運営協議会における意見聴取を踏まえて私費会計処理を適正に行ったので「目標達成」とする。</p>

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

令和4年度は、不祥事ゼロプログラムに課題9項目を設定し取り組みを行った。課題(1)について、昨年度は成績処理において、単位数の誤記載という事案が生じた。教務グループを中心に成績処理マニュアルを見直し、点検の徹底を図ったことにより、今年度はミスのない成績処理を実現することができた。

課題(2)～(7)については、時期にふさわしい適切な研修テーマを約20回、年間計画に位置付け、内容に応じて校長・副校長・教頭・グループリーダーが講師を務めた。不祥事防止・啓発点検資料等を活用し、各講師が経験に基づく具体的な講話や呼びかけを行うなど、教職員が共感し、危機管理意識を共有するのに効果的な展開であったと実感している。また、初任者等経験の浅い職員への声かけや観察を丁寧に行い、時期を逃さず迅速な指導をすることにより、職員相互が一体感をもって不祥事防止に取り組むことができた。

学校における教育活動を円滑に進めるため、生徒、保護者、県民と適切にコミュニケーションをとり信頼関係を築き継続する必要がある。次年度は、適切なコミュニケーションを図るための心がけや手法等について理解を深める研修を実践するとともに、不祥事防止会議や不祥事防止研修の内容や展開を一層に充実させていきたいと考える。